

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																						
東京ベルエポック製菓調理専門学校		平成20年2月27日	井上 美津子		〒134-0083 東京都江戸川区中葛西4-2-5 (電話) 03-5878-3397																						
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																						
学校法人滋慶学園		昭和58年12月23日	浮舟 邦彦		〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6-16-2 (電話) 03-5878-3311																						
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																					
衛生	衛生専門課程	パティシエ実践科			平成28年文部科学省 告示 第十八号	—																					
学科の目的	基本技術とコミュニケーション力を持ち合わせ、環境対応力が高く、業界で貢献できる人を養成する。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
	2年 昼間							1800時間	210時間	60時間	1530時間	0時間	0時間														
単位時間																											
生徒総定員		生徒実員	留学生数 (生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
80人		51人	3人	6人	10人	16人																					
学期制度	■前期：4月11日～9月16日 ■後期：9月26日～1月30日			成績評価	■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準： A (100～90点)・B (89～80点)・C (79～70点)・D (69～60点)・F (59点以下) 評価の方法：各科目ごとに定期試験、毎回授業で実施の小テスト2要因にて評価。																						
長期休み	■学年始：4月1日～4月10日 ■夏季：7月16日～9月1日 ■冬季：12月23日～1月9日 ■学年末：2月4日～3月31日			卒業・進級条件	教育課程の定めるところにより、学年ごとに修了すべき教科目について試験を行い、合格者に対して該当教科目の修了を認定する。ただし、実習については、実習の成績によって修了を認定することができる。																						
学修支援等	■クラス担任制： 有 ■個別相談・指導等の対応 学生の学校生活及び就職活動、学外活動など多岐に渡りキャリア教育の視点でサポートしている。			課外活動	■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学生スタッフ (食分野に興味のある高校生などに食の仕事のすばらしさを伝えるボランティア活動) ■サークル活動： 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等 (2021年度卒業生) パティスリー・ホテル・ペーカリー・カフェ ■就職指導内容 学生個々の将来像と生活設計を明確にしビジョンにマッチした就職先を選択できるようにサポートしている。 ■卒業者数： 0人 ■就職希望者数： 0人 ■就職者数： 0人 ■就職率： 0% ■卒業者に占める就職者の割合： 0% ■その他 (2021年度卒業者は0名)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (2021年度卒業者に関する2022年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>製菓衛生師</td> <td>②</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>食品衛生責任者</td> <td>③</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>商業ツバシラ検定3級</td> <td>③</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>おもてなしツバシラ検定</td> <td>③</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他 (民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	製菓衛生師	②	0	0	食品衛生責任者	③	0	0	商業ツバシラ検定3級	③	0	0	おもてなしツバシラ検定	③	0	0
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
製菓衛生師	②	0	0																								
食品衛生責任者	③	0	0																								
商業ツバシラ検定3級	③	0	0																								
おもてなしツバシラ検定	③	0	0																								
中途退学の現状	■中途退学者 4名 2021年4月1日時点において、在学者27名 (2021年4月1日入学者含む) 2022年3月31日時点において、在学者23 (2021年3月31日卒業者含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由、心身健康不全、既往歴の影響 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任制により定期的に個別面談を実施し、学修状況や要支援事項の確認を行っています。またスクールカウンセラーによる相談窓口の開設、実習室の開放による技術サポート制度、学費に関する相談窓口の設置等を行っています。			■中退率 14.8%																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度・グループ校兄弟姉妹学費学費免除制度 ■専門実践教育訓練給付： 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受賞年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	https://www.seika.belle.ac.jp/gakka/patisserie_practice																										

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針
本校の建学理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の実現のために企業等と多様な連携を推進し、業界で求められる人材を「体験型学修」を通じて育成していく。また、委員会以外でも業界からの意見をもらい、取り入れていく。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

企業・業界団体等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能を反映するため、企業・業界団体等からの意見を十分にいかし、カリキュラムの改善等の教育課程の編成を定期的に行うことを目的とする。また、学校が編成した企業連携に関する教育課程案を委員会へ付議し、委員会による改善意見を反映していく。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2022年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
井上 美津子	東京ベルエポック製菓調理専門学校		学校長
阿部 憲一朗	東京ベルエポック製菓調理専門学校		運営本部長
山浦 雄矢	東京ベルエポック製菓調理専門学校		教務部長代理
岡本 和大	東京ベルエポック製菓調理専門学校		キャリアセンター長
増田 哲平	東京ベルエポック製菓調理専門学校		製菓調理学部
門井 聡	東京ベルエポック製菓調理専門学校		学科長
飯田 修一	東京ベルエポック製菓調理専門学校		FDC
酒井 久義	東京ベルエポック製菓調理専門学校		FDC
田中 幸恵	東京ベルエポック製菓調理専門学校		リーダー
加藤 高康 (パティシエ科)	株式会社ホテルオークラ東京ベイ	2022年4月1日～2024年3月31日まで	③
竹内 浩 (調理師科)	ケーヨーリゾート開発 株式会社	2022年4月1日～2024年3月31日まで	③
本橋 雅人 (パティシエ実践科)	株式会社アニバーサリー	2022年4月1日～2024年3月31日まで	③
横井 裕之 (パティシエ科・パティシエ実践科)	一般社団法人 日本フードアナリスト協会	2022年4月1日～2024年3月31日まで	①
坂本 実継 (調理師科)	公益社団法人 全日本司厨士協会	2022年4月1日～2024年3月31日まで	①

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回 6月・10月

(開催日時)

第1回 2022年 6月16日 12:00～14:00

第2回 2022年10月20日 15:30～17:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

Z世代などの新しい価値を持つ若者に向けた教育の方向性について議論した。

委員からの意見としては、

・自身のお店で働いている若いスタッフからも以前と比べて、自己固定感が低く失敗を恐れてチャレンジする姿勢が少なくなっていると感じている。もっと自分で考えて動くことが必要で、答えを教えるだけの教育ではないほうが良いと考えている。

そこで、学校としての経験を積み上げていく重要性も含め、基礎技術の習得だけでなく、実践的な販売実習などに力をいれ、学生に様々な学びの場を提供することとした。また、自問自答の機会として、業界で活躍されるシェフパティシエ、オーナーの方の特別講話など、機会発掘と実行を増やしていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校建学理念の1つである「実学教育」の実現のためにその分野を専門としている企業や業界団体などと連携し「体験型学習」を通して実践的な教育を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

①製菓業界の販売員向け講習会などで実績のある商業ラッピング協会より講師を派遣してもらい、業界のニーズに合わせたカリキュラムの作成から授業に至るまで一貫性をもった授業を実施する。また、毎回の授業にはシラバス、コマシラバス、小テストなどを活用するとともに学習成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

評価方法：学則に基づき、成績評価・単位認定を行う。また、科目履修後に商業ラッピング3級の資格試験を受験し、学習成果を図る。

②パティスリーやホテル、企業などの業界で活躍しているパティシエを講師として派遣してもらい、商品開発担当者から直接商品開発について実習を通して、オリジナルの菓子を創造する考え方を学ぶ。

評価方法：卒業制作に結びつけ、改善プロセス及び市場性・技術力プレゼンテーションについて各企業と連携して学習評価を受ける。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
商業ラッピング	ラッピング技術の応用を学ぶ。創造性表現力を身につけ、平面から立体への造形を学ぶ。	日本商業ラッピング協会
コラボレーション実習Ⅰ～Ⅱ	顧客に支持される現場のトッププロから売れる商品の作り方、顧客の求める価値、マーケティングと実習だけでなく売れる商品を創造する秘訣を学び取る。	株式会社 PSCOOP

<p>3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</p>
<p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針</p> <p>学園の研修規定に基づき、教職員の授業内容・方法、クラス運営方法を改善し向上させるとともに、マネジメント能力を含む指導力の習得および専門技術や専門知識を向上させるために定期的に実施する。</p>
<p>(2) 研修等の実績</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「 滋慶学園グループ食文化教育部会 FD研修 」(連携企業等: イチフ・ジャパン) 期間: 12月7日(火) 対象: 教務全教職員 内容: 調理実習から学ぶ「また受けたい授業」とは</p> <p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「マネジメント研修 」(連携企業等: 滋慶教育科学研究所) 期間: 10月19日(火) 対象: 学科長以上 内容: マネジメントと教育</p> <p>研修名「滋慶教育科学学会 」(連携企業等: 滋慶教育科学研究所) 期間: 12月9日(木) 対象: 指名教職員 内容: 成功から学ぶ効果的な教育・広報について</p> <p>研修名「FDレベルアップ研修」(連携企業等: 滋慶教育科学研究所) 期間: 1月25日(火) 対象: FDC 内容: 効果的な反転授業について</p>
<p>(3) 研修等の計画</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「 滋慶学園グループ食文化教育部会 FD研修 」(連携企業等:) 期間: 8月5日(木) 対象: FDC 内容: フードロスの現状について 地産地消の取り組み報告</p> <p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「 FDミクロ研修 」(連携企業等: 滋慶教育科学研究所) 期間: 5月17日(月) 対象: 学科長 内容: 教育の質の保証戦略、教育システム開発について</p> <p>研修名「教職員カウンセリング研修」(連携企業等: 滋慶教育科学研究所) 期間: 9月30日(木) 対象: 全教職員 内容: 学生指導・教科指導におけるカウンセリングスキルを学ぶ</p> <p>研修名「FDフォローアップ研修」(連携企業等: 滋慶教育科学研究所) 期間: 11月4日(水)、5日(木) 対象: 教務1・2・3年目教員 教科担当 内容: 教授法開発、クラス運営開発について</p>

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校として目指すべき重点課題を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等を評価することにより、組織的・継続的に学校運営を改善することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 理念 目的 育成人材像
(2) 学校運営	2 運営方針 事業計画 運営組織 人事・給与制度 意思決定システム 情報システム
(3) 教育活動	3 目標の設定 教育方法・評価等 成績評価・単位認定等 資格・免許の取得率 教員・教員組織
(4) 学修成果	4 就職率 資格・免許の取得率 卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	5 就職等進路 中途退学への対応 学生相談 学生生活 保護者との連携 卒業生・社会人
(6) 教育環境	6 施設・設備等 学外実習・インターンシップ 防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	7 学生募集活動 入学選考 学納金
(8) 財務	8 財務基盤 予算・収支計画 監査 財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	9 関係法令、設置基準等の遵守 個人情報保護 学校評価 教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	10 社会貢献・地域貢献 ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員の意見及び評価を真摯に受け止め学校運営の改善に役立てている。特に、評価点上課題がある項目について重点的に取り組んでいる。令和2年度の評価については3点満点中、委員評価の平均が2.8と高い評価を頂くことが出来た。勤怠管理における過重労働が課題であり、今年度当初から働き方改革に取り組んでいる。

具体的には、委員の意見を元に、学年暦・カリキュラムの見直しと、役割の見直しを行い、業務量の偏りを減らす取り組みをしている。また、学生に不利益の無い様に行事等のイノベーションをかけている。それにより、職員の業務効率の向上となり過重労働時間の削減に繋がっている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2022年5月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
重信 光	PAT GOOD CAFE	2022年4月1日～2024年3月31日まで	卒業生代表
金坂 光代	東京ペルエポック製菓調理専門学校	2021年4月1日～2023年3月31日まで	保護者代表
高橋 茂夫	江戸川区 仲町町会	2022年4月1日～2023年3月31日まで	地域近隣代表
森 章	拓殖大学紅陵高校	2022年4月1日～2024年3月31日まで	高等学校代表
竹内 浩	ケーヨーリゾート開発株式会社	2022年4月1日～2024年3月31日まで	業界代表
加藤 高康	株式会社 ホテルオークラ東京ベイ	2022年4月1日～2024年3月31日まで	業界代表

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

2022年6月16日 ・ URL:<https://www.seika.belle.ac.jp/about/jyouhou>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

専修学校の専門課程における職業実践専門課程の認定に関する規定および自己評価報告書を基に学校関係者評価委員会を活用し学校の現状について適切に説明責任を果たすと共に、地域や業界における学校関係者と学校の連携強化を推進し、日々教員の教育力・運営力向上に努めていく。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	基本情報(所在地・連絡先)、開校の目的、建学の理念、学校の沿革、学校長略歴
(2) 各学科等の教育	各学科の入学定員・養成目的、教育システムとカリキュラム体系、教育スケジュール、資格取得一覧、主な就職先
(3) 教職員	教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み、就職支援の取り組み
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育活動、教育環境
(6) 学生の生活支援	主な学生生活サポートシステム、医療・健康サポート、住環境サポート、就職サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学費納付金、学費サポート
(8) 学校の財務	監査報告、貸借対照表、収支計算書
(9) 学校評価	自己点検・自己評価、学校関係者評価委員会議事録
(10) 国際連携の状況	国際交流
(11) その他	災害時非常時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<https://www.seika.belle.ac.jp/about/jyouhou>

事務担当責任者	フリガナ	アベ ケンイチロウ	所属部署	事務局
	氏名	阿部 憲一朗	役職名	事務局長
	所在地	〒134-0083 東京都江戸川区中葛西4-2-5		
	TEL	03-5878-3397	FAX	03-5878-3398
	E-mail	k-abe@belle.ac.jp		

授業科目等の概要

(衛生専門課程パティシエ実践科) 2022年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			キャリア教育講座Ⅰ～Ⅳ	成功するプロとは何か??を探求し自身のキャリアプランを構築する。成功の原則を学び成功する習慣を理解し習慣化する。	1通2通	120	4	○	△		○		○			
○			製菓衛生師通信課程関連学	製菓衛生師受験に必要な科目(製菓理論・衛生法規・公衆衛生学・食品衛生学・食品学・栄養学・社会)を学ぶ。	1通	120	4	○			○			○		
○			製菓衛生師通信課程製菓実習(洋菓子)	洋菓子における基礎的作業を修得し、基礎的技術を学ぶ。	1前	90	3				○	○		○		
○			製菓衛生師通信課程製菓実習(和菓子)	和菓子における基礎的作業を修得し、基礎的技術を学ぶ。	1前	30	1				○	○			○	
○			製菓衛生師通信課程製菓実習(製パン)	製パンにおける基礎的作業を修得し、基礎的技術を学ぶ。	1前	30	1				○	○			○	
○			和菓子実習	和菓子製造における衛生管理、器具の扱い方、基本生地の製造が出来るようになる。	1前	30	1				○	○			○	
○			製パン実習	製パン製造における衛生管理、器具の扱い方、基本生地の製造が出来るようになる。	1前	30	1				○	○			○	
○			資格演習	製菓衛生師国家試験合格に必要な知識を習得し合格する学力を身につける。	2前	30	1	○				○			○	
○			ラッピング	ラッピング技術の応用を学ぶ。創造性表現力を身につけ、平面から立体への造形を学ぶ。	2前	30	1				○	○			○	○
○			情報技術	パソコンの基本的知識と操作を身につけ、プレゼンテーションに必要なPC技術を学ぶ。	2後	30	1				○	○			○	

○		洋菓子実習 I・II	基礎基本の技術を踏まえて扱いが繊細な生地や クリームの製法を習得する。	1 通	560	18				○	○		○	△	
○		コラボレー ション実習 I ～II	企業課題や学内店舗実習などの実践教育の中で 洋菓子製造の現場で必要な技術・知識を習得す る。	2 通	240	8				○	○		△	○	○
○		製菓総合実習 I～II	洋菓子の基礎技術の向上や応用技術とピエスモ ンテの基礎技術を身につける。	2 通	240	8				○	○		△	○	
○		創作スイーツ 実習 I～II	基本技術を用いたオリジナル創作菓子の制作技 術を身につける。	2 通	240	8				○	○		○		
合計					12	科目	1800単位時間(60単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
学則及び施行細則に基づき学年ごとに修了すべき教科科目について試験を行い、合格者 に対して該当科目の修了を認定する。また、学校長及び学校長が指名した者により構成 される卒業進級判定会議を開催し、審査のうえ判定する。		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	1 5 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、
主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。